

	〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	○達成度 A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満~80%以上) C:やや不十分である(80%未満~60%以上) D:不十分である(60%未満)
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	○受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信 ・各機関・団体への周知 ・ <u>農業系高校等との連携強化</u>	・ホームページを概ね毎月1回更新。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施。 ・広報紙「緑旗」の発行、新聞等広報媒体への情報提供。 ・県内高校、定時制、通信制、専修学校高等部を訪問して募集要項を配布。 ・JAバンク佐賀提供のラジオ番組で学生募集を告知。 ・報道機関各社(62社)へメールにてプレスリリースし、学生募集告知を依頼。 ・各農業振興センターの広報誌に学生募集の記事掲載を依頼。 ・県、市町、JA広報誌に、学生募集の記事掲載を依頼。 ・高校向けの募集説明会の開催。 ・農業系高校を中心に進路ガイダンスに参加。 ・同窓会会員に学生募集のPRを依頼。 ・ <u>農業系高等学校長との連絡協議会の開催。</u> ・農業系高校を中心に募集説明会を開催(再掲)。 ・農業系高校へ出張講義を実施。 ・農高生の農大施設見学受入を実施。 ・ <u>「未来さが農業塾」の生徒と農大生との交流を実施。</u>			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	○オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者45名以上	・農業系高校等との連携強化 ・農大の情報の提供 ・各機関・団体への周知	・県内高校、定時制、通信制、専修学校高等部を訪問し、オープンキャンパスをPR。 ・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催。 ・「未来さが農業塾」の生徒と農大生との交流を実施。 ・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施。 ・JAバンク佐賀提供のラジオ番組でオープンキャンパスを告知。 ・ホームページの概ね毎月1回の更新。 ・農産物直売や講義・実習等週1回の撮影を実施。 ・報道62社にメールにてプレスリリースし、オープンキャンパス告知を依頼。 ・農業振興センターの広報紙にオープンキャンパスの記事掲載を依頼。 ・県広報誌に、オープンキャンパスの記事掲載を依頼。			
2 高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○栽培技術の習得 ・IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ・化学農薬・肥料のみに依存しない栽培管理技術の習得	・IoT機器が活用できる学生の割合 100% ・持続可能な農業を実践できる学生の割合 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導 ・施設野菜における持続可能な農業を実践	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導実施。 ・環境測定機器の取扱方法の指導実施。 ・温湿度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて指導実施。 ・みどりの食料システム戦略の考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。			
	○経営能力の向上	・担当する品目の所得の把握ができる学生の割合 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、課題の進捗状況を把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録指導。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得を算出させる。			
	○GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践	・GAPを実践できる学生の割合 100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 ・先端技術を活用した管理技術の習得	・習得した学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・先進技術を活用した管理作業の指導	・露地野菜の基礎的な生理生態、知識と管理技術の指導。 ・一連の必要とする作業内容を説明、実践し、管理・観察日誌等で理解度を確認。理解度に応じた指導を実施。 ・担当するプロジェクト品目の決定と作付け計画、実践の指導。 ・タマネギの機械化一貫体系の実践と技術習得。 ・タマネギの所得率、作業性などの経営評価の実施。			
	○GAPの実践を通したよりよい露地野菜栽培の実践	・GAPを実践できる学生の割合 100%	・露地野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			
	○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	・一連の作業を機械で操作できる学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・農業機械の作業点検方法の指導	・トラクター、防除機、管理機等の操作実習の実施。 ・機械等の点検の実施。			
2 高い技術力や経営力の習得	【農産】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 ・スマート水田農業機械の操作習得	・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・スマート水田農業に関する知識の習得 ・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導	・米・麦・大豆の基礎的な生理生態、基礎知識の指導とその確認のため実習試問による理解度の把握。 ・米・麦・大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を解説し、実践させ、後日、質疑や作業日誌等で理解度を把握。 ・スマート機械の取扱方法の指導実施 (GPSトラクター、GPS田植機、GPS収量コンバイン、農業用ドローン)			
	○農業機械の基本操作と維持管理の習得	・一連の作業が機械で出来る学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・大型特殊(農耕車)免許及びけん引(農耕車)、フォークリフト免許の全員取得。 ・農業機械の基本操作及び圃場作業の手順を整理させる。 ・専攻内で機械操作ポイントを意見交換する場を設け、操作スキルの向上を図る。			
	○GAPの実践を通したよりよい米・麦・大豆栽培の実践	・穀類(精米)でのJGAP認証取得(新規)	・作物の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を実習内の座学、実践で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
高い技術力や経営力の習得	【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	・習得した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義および指導 ・県育成品種「佐賀果試35号」等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させ習熟度を確認。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導。 ・温暖化に対応したカンキツ、ブドウ栽培技術について最新の栽培技術について課題解決の方策を指導。 ・温州ミカン「佐賀果試9号」や「佐賀果試35号」の技術習得のため、プロジェクト課題としてより深く課題解決に取り組む。			
	○スマート農業に関する知識の習得	・習得した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・温州ミカン根域制限栽培、ブドウ根域制限栽培及びナシ低樹高ジョイント栽培圃場のAIによる肥培管理システムを利用した栽培管理法について液肥施用技術についての指導に取り組む ・ロボット草刈り機およびスピードプレイヤーを導入し、効率的な圃場管理作業を習得させる。			
	○経営能力の向上 ・果樹経営特性の理解 ・GAPの実践を通じたよりよい果樹栽培の実践	・習得した学生の割合 100% ・果樹(ぶどう)でのJGAP認証取得(更新審査)	・果樹経営特性の理解 ・引き続きGAPに取り組むとともに、更新審査に必要な作業を实践	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導。 ・市況や統計資料等と記帳結果と比較して、担当圃場での問題点を整理し改善策を検討。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理。 ・記帳や整理整頓を实践するとともに、学生に対して必要な知識向上のための学習を实施。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【花き】 ○主要花きに関する基礎知識・栽培技術の習得	・習得した学生の割合 100%	・主要品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識および栽培技術の習得 ・新規品目や新品種の導入及び栽培技術の習得 ・プロジェクト研究における課題解決能力の向上	・主要品目の基礎的な生理生態および栽培技術、収穫後の品質保持技術について講義・実習を通して指導する。 ・作業記帳および観察記録を習慣化させ、定期的な記帳状況の確認、習得度チェックリスト、試問等により理解度を把握し、理解度に応じて指導を行う。 ・温暖化対策をはじめ、情勢の変化に対応した新規品目や新品種を導入し、基礎的な生理生態及び栽培技術、最新情報について、講義・実習を通して、理解・習得させる。 ・学生の進路意向および地域課題を反映した課題設定を行い、計画立案、調査方法、取りまとめに関する指導を通して、プロジェクト研究に対する学生の意識づけを深める。 ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業振興センター）と連携し、情報収集を行う。			
	○花きのマーケティングにおける基礎知識・技術の習得	・習得した学生の割合 100%	・花きのマーケティングに関する基礎知識の習得 ・花きの加工およびオリジナル商品開発のための技術習得 ・コミュニケーション能力の向上	・先進事例に関する情報収集および校外講義を実施する。 ・6次産業化の取り組みとして、生花を用いた染色やフラワーアレンジメント等の加工技術およびオリジナル商品開発のための手法を習得させる。 ・直売や収穫祭等を通して礼儀作法や接客能力を指導・習得させる。 ・実習において、定期的なグループワーク等による作業の計画や振り返りを行う。			
	○GAPの実践を通じたよりよい花き栽培の実践	・GAPを実践できる学生の割合 100%	・花きの実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方や実施方法に関して、講義・実習で指導する。 ・使用資材・機材等の整理・整頓を実践し、作業環境の改善を行う。 ・使用資材等の使用履歴の記帳を指導する。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い 技術力 や 経営力 の 習得	【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得	習得した学生の割合 100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛発情観察記録表への記入させる。 ・繁殖牛の分娩前観察及び分娩介助を実施。 ・家畜人工授精師資格取得へ向け、知識と技術を習得。 ・家畜人工授精の実践指導。 ・ICT機器活用による繁殖牛の管理の実践。			
	○家畜栄養の学習	習得した学生の割合 100%	・飼料給与技術の習得 ・各畜種（乳牛、種雄牛、豚）の飼料給与技術の習得	・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践。（繁殖肥育一貫経営の実践） ・発育状況把握のための毎月体測を実施。 ・子牛の発育状況などを確認させるため、子牛セリに参加。 ・畜産試験場での実習実施（30回／年以上）。			
	○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習	習得した学生の割合 100%	・糞尿の堆肥化处理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	・堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化处理技術を習得させる。 ・畜産試験場での実習時に学習させる。 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業実習の実施。			
	○飼料作物栽培の学習	習得した学生の割合 100%	・飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物を栽培し、生育状況の観察させる。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習実施。 ・飼料作物収穫後再生させ複数回の収穫作業実施。			
	○管理能力の向上	習得した学生の割合 100%	・GAPに関連した知識の習得	・GAPに基づいた記帳や整理整頓を実践し管理環境を改善させる。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工の基礎知識及び加工技術の習得	・農畜産加工の基礎知識と加工技術を習得した学生の割合 100%	・野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 ・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥等の加工等演習の実施	・野菜・果実・穀類等を使用した加工品を製造し、それぞれの原料に合わせた加工技術を習得させる。 ・加熱、急速冷凍、包装等加工品製造に必要な機械を操作させ、衛生と安全に配慮した加工技術を習得させる。			
	○商品づくりの基礎知識の習得	・商品づくりの基礎知識を習得した学生の割合 100%	・商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施 ・商品の製造、模擬販売の実施	・商品として販売するために必要な食品表示、ラベル作成の他、直売会での販売等を通して知識を習得させる。 ・直売会、収穫祭などの機会をとらえ、消費者への対面販売を行う。			
	○衛生管理の基礎知識の習得と実践	・食品衛生についての基礎知識を習得し、商品の製造、管理において適切な扱いができる学生の割合 100%	・清掃指導や法律に準じた加工品の製造方法に関する演習の実施	・食品衛生法やHACCP等食品衛生の基礎知識を習得させる。 ・清掃マニュアルを作り、徹底した清掃指導をする。			
	【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格取得	・必須の資格 合格率100% ※ 大型特殊免許、けん引免許等 ・選択の資格 合格率 50%以上 ※ 農業技術検定、危険物取扱者、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実	【必須の資格(免許等)の取得】 ・農耕用大特免許 ・農耕用けん引免許 【選択の資格の取得】 ・農業技術検定(2級、3級) ・危険物取扱者 ・毒劇物取扱者 ・農業用ドローン ・アーク溶接 ・狩猟免許 ・フォークリフト ・小型車両系建設機械 ・農業簿記検定(2級、3級) ・土壌医検定 ・資格や免許に対応した特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施。 ・合格レベルに達しない見込みの者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施。			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生の進路決定	○就農・就職決定率	・就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の出身地域の枠を超え、農業法人とのマッチングを考慮して、先進農家派遣研修を実施。 ・進路指導専任職員(会計年度職員)の配置。 ・1年生、2年生を対象にキャリアプランニングの講義を実施し、早い段階からの進路指導を強化。 ・ハローワークとの連携、求人情報の提供。 ・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施。 ・就農準備資金の制度活用を支援。 ・若手農業者との意見交換会の開催。 			
4 農業者研修の充実	○大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・免許取得 合格率95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生がより理解しやすいよう指導方法を工夫 ・指導体制の維持・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転操作研修において、受講者の技術習熟度に個人差が生じることがある。その際には、指導職員間で情報を共有・連携しながら、伴走支援し、研修全体がスムーズに進むように努める。 ・今後、農業機械の知識や操作指導力を向上するため、指導職員用マニュアルの充実を図る。 			
	【農産加工支援研修】 ○受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数の確保 1講座 10人 ・受講生の理解度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産加工に興味を持った農業者への周知 ・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センター、農業経営課、さが農村ビジネスサポートセンター等と連携した受講生の募集 ・プレスリリースによる研修会開催の周知 ・農大HP等を活用した情報提供 ・農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施 ・受講後のアンケート調査の実施 			
	○農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	・研修受講後の満足度向上 満足度80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・参加後の聞き取り調査等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員理事会、各部会会議 ・70周年記念大会運営、サポート ・農業青年会議 ・さが農業力向上セミナー ・農業青年冬季のつどい ・九州、全国の活動への参画 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。 			

目標	評価項目	令和7年度目標	目標達成のための方策	具体的取組計画	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○農業者組織(青年農業士)活動の活性化	・研修受講後の満足度向上 満足度 80%以上	・青年農業士を対象に各種研修会の開催(参加しやすさを考慮して企画) ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・情報交換会の開催 3回 ・全体研修会の開催 1回 ・県外研修への派遣 4名程度 ・研修後に参加者へアンケート調査を実施。 ※令和7年度は、農業士及び青年農業士は、認定見直しされる見込み			
	○農業者組織(農業士)活動の活性化	・組織活動の活性化や研修受講後の満足度向上 満足度 80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催(できるだけ多くの農業士が参加できる内容にする) ・参加後の聞き取り調査等の実施	各種会議の開催 ・役員会議 4回 ・県農政関係課長との意見交換会 各部会活動の実施(7部会) 各種研修会会議への参画 ・九州・沖縄農業士研修会 ・指導農業士全国研究会 ・九州農政局幹部と九州・沖縄各県指導農業士との意見交換会 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。 ※令和7年度は、農業士及び青年農業士は、認定見直しされる見込み			